The Japan Society of Educational Sociology

逸脱行動分析の一視角

——行為論による規範過程モデルの試み——

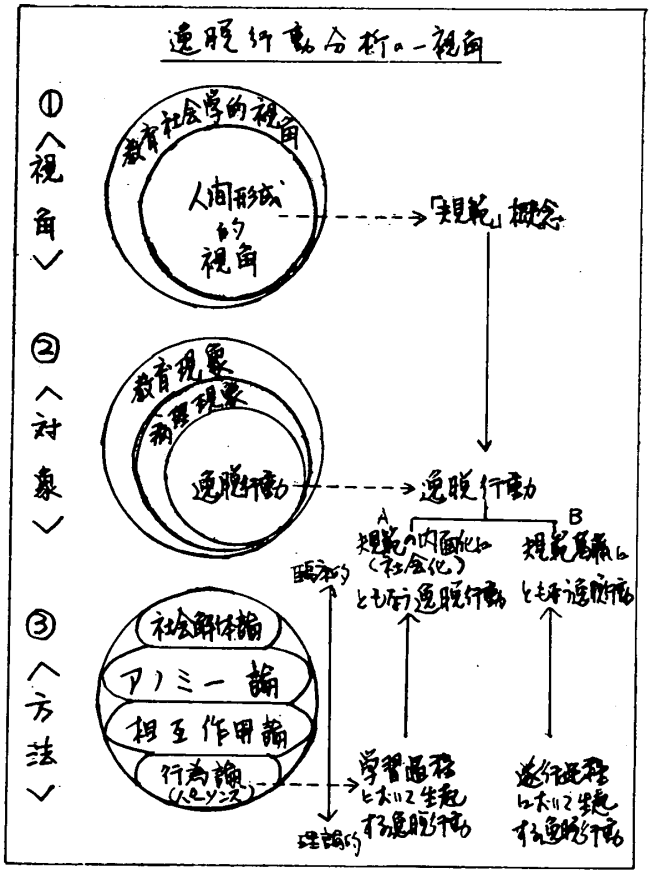
東京大学大学院　森本幸子

逸脱行動の分析は、これまで社会学を中心に多くの分野でなされてきている。ここでは、とくに教育社会学における逸脱行動分析の視角とは、何かについて考えてみたい。

教育社会学の一つの大きな視角は、"人間形成"にある。この視角を基礎として、教育の諸問題を逸脱行動として考察してゆくことが、教育社会学的逸脱行動論の基本的視角（パースペクティブ）である。

すなわち、逸脱行動が生起する過程を分析するための焦点を、「人びとが社会的諸要因との相互連関をつうじて、社会的に形成されてゆくプロセス」に置き、それが望ましく達成されない場合を逸脱行動として把握することを提案したい。

本研究においては、「人びとが社会的に形成されてゆくプロセス」を、社会化過程として、そのプロセスにおいて生起する逸脱行動を、逸脱行動の一つの大きなパターンとして、さらに詳細な検討をおこなう。しかしながら、これは、現代に特有なタイプの逸脱行動のモデルを提供するものではかならずしもない。むしろ、以前からずっと存在した逸脱行動のパターンの分析枠組である。より今日的な逸脱行動のパターンとして、規範葛藤による逸脱行動のモデルを提示する。巨大化した社会にあっては、人びとは、公私ともに、さまざまなシステムに組み込まれ、価値（規範）体系の分裂のなかで、それぞれのシステムから課される異なった、多くの規範に従うことを強いられる。そして、その結果、行為選択の誤りや、まよいが生じる。このようなタイプの逸脱行動は、現代にとくに鋭である。



すなわち、逸脱行動を、「規範」概念を基礎とし、規範の内面化過程（社会化過程）にかかわるものと、規範葛藤にかかわるものとに分類する。そして、それぞれについて、逸脱行動の生起するプロセスと、そのパターンについて検討を行なう。

ところで、このような逸脱行動研究は、基本的には、理論志向的である。もともと逸脱行動研究は、社会問題の解決のための、実践的要請の強い研究として生れてきたものである。したがって、その基本的方向としては、どちらかといえば、臨床的な志向を持ったものが多い。アベル、T. がいうように、社会学における研究は、理論志向的研究と臨床的研究とが相携えて発展してきたものであり、これらは、相互依存的に共存すべき性質のものである。

しかしながら、教育社会学研究および逸脱行動研究の現状を概観するとき、用いられる概念の統

NII-Electronic Library Service

The Japan Society of Educational Sociology

一の欠如、分析的定義なしの概念図式など、理論志向分野のはなはだしいたち遅れに、目を留めないわけにはゆかない。

ここでは、このような研究の現状にかんがみ、理論志向的な逸脱行動論を展開する。

以下、用いられる基礎概念および構成を、簡単に紹介しよう。

まず、分析にさいしての視角は、教育社会学的視角であり、とくには、人間形成的視角である。ここから、「規範」をキイ概念とするという基礎が、できあがる。そして、規範を、「その受容あるいは拒否にともなって、正負の社会的および/ないしは内的サンクションが作動する行動規則」と定義する。規範は、このように、一般的に定義されることを通して、人びとの社会的形成過程を分析するさいの基礎概念となりうる。そして、その対象としては、教育現象のなかでも、とくに、その動機として考えられるものを逸脱行動として把握する。逸脱行動とは、規範から外れた行動である、と定義され、したがって、逸脱であるか否かは、規範および規範解釈に依存する。すなわち逸脱行動は相対化される。

つぎに、規範にもとづいて逸脱行動の理論的モデルの構築をおこなうと、逸脱行動は、規範過程（規範によってコントロールされ、規範に従った行動を遂行する過程）の二つの過程である、規範の内面化と遂行の過程にともなって、それぞれ、A、B、二つのパターンに大別される。つぎに、これをきる方法としては、行為論的アプローチをとり、A、Bを、それぞれパーソンズ理論の行為過程の二つのパターンである、学習過程と遂行過程に対応させて、A、規範の内面化にともなう逸脱行動のモデル、B、規範者筋にともなう逸脱行動のモデルが提示される。

もとより、以上の構論は、厳密な実証という過程をへていない。あくまでも、逸脱行動分析のための一つの理論的モデルの提示にすぎない。このモデルは、今後、実証的研究を通じて、修正がくわえられる必要があろう。また、このモデルは、一般的モデルであるゆえに、個々の特殊な逸脱的行為現象をすべて説明しうるものではない。特殊個別的現象の分析にさいしては、特殊な条件がこのモデルに付加されねばならない。その場合、特殊研究の成果が重要となる。したがって、逸脱行動の研究にとって、理論的研究（一般的）、実証的研究、およびそれぞれの特殊的研究の協働が要請される。本発表は、理論化への一つの試みである。

NII-Electronic Library Service